

## お宝情報5：萩地蔵伝説と地元の風習(さぬき市)

提供者 飯田さん

四国 88 力所霊場の、86 番志度寺～87 番長尾寺へ向かう遍路道の間あたりに「萩地蔵」という当地のお地蔵さまがあって、それには二つの伝説が伝わっています。

一つは、志度寺の御本尊を作った、その余った木で作ったというもの。

もう一つは、あるお寺が「寺宝展があるので、ちょっと貸してくれ」と言って持ち帰り、なかなか返さなかったのを、住民が怒り、取り戻しに行ったら、石のお地蔵さんを代わりによこした。という話です。

このお地蔵さまの管理は古くは長行地区の南の真言宗の同行達が、昭和 59 年の建物移動からは老人会が、その後真言宗の個人宅が引き受けていましたが、いろいろなきさつを経て平成 26 年から飯田家で管理することになりました。

造田村史等から想像すると、志度寺の本尊が作られた 625 年ごろに、本尊製作のために剥いだ木をもらい受け、815 年頃に空海が地蔵さまを彫ったのではないかと考えられます。自然界の萩の木に指より太いものはなく、仏像を彫ることは出来ないの、萩の木ではなく、剥ぎの木（ハギ→萩）と考えた方が合点がいきます。その後、1846 年にある寺が持ち帰ったのち、石の地蔵になって帰ってきたと考えると、二つの伝説ともつじつまがあうと言えます。

真実は分かりませんが、1400 年の歴史を秘めた「萩地蔵」は、飯田桃園直売所横の休憩所には鎮座しています。

また、8 月 22 日ごろに行われる地蔵盆行事や、月に 1 度各家が当番になり、家々の家内安全等を祈る真言宗の「おかんき」という行事は地域の交流の役目も果たしていました。まだ残っている地域もありますが、今では「萩地蔵」の伝説も、地域の行事も次の世代に伝承しにくい時代だと思えます。書面に残すのみです。



【小豆島町の川めし：「たからばこ」より】【さぬき市新川神社の数珠繰り：「たからばこ」より】

★あぐりんコメント：地域の伝統行事や伝説、風習も、途切れてしまったら掘り起こすこと、復活させることは難しいので、何らかの形で残すことは大切だと思います。ただ、地域や人のつながりは大切に引き継いでもらいたいと願っています。